2016.9.30 12:08

【明美ちゃん基金】ミャンマー医療団初派遣から１年　見えてきた成果と課題は？　９月の渡航では３４人治療

明美ちゃん基金。外科、ICUでの経過観察＝９日午前、ミャンマー・ヤンゴン（安元雄太撮影）

国内外の心臓病の子供たちを救う「明美ちゃん基金」（産経新聞社提唱）の医療団11人が9月5日から約1週間にわたりミャンマー・ヤンゴンを訪れ、国立ヤンキン子供病院で活動を行った。今回治療した心臓病の子供は34人。昨年9月に初めて医療団を派遣してから1年が経過し、現地医師の手技に上達がみられるなど成果が確認できた一方、解決しなければならない課題も明確になっている。同院のキン・マウン・ウー内科部長は「私たちには足りないところがまだたくさんある。これからも日本からの支援をお願いしたい」と話した。（前田武、道丸摩耶）

患者がいるのに手術ができない…喫緊の課題は「術後管理」

「今日の手術はなし」。活動最終日の9日、2件の手術を予定していた外科チームは現地医師から突然そう伝えられた。術後管理を行う集中治療室（ICU）が満室になったためだ。

外科チームを率いた市川肇医師（国立循環器病研究センター）は「重症の難しい症例が多く、術後の回復に時間がかかった」と話す。治療を待つ患者はあふれている。手術室もあり、医師もいるのに、手術ができないもどかしさ。術後管理の強化は喫緊の課題だ。

ミャンマーの医療に詳しいジャパンハートヤンゴン事務所の河野朋子プロジェクトディレクターは「日本では乳児検診で病気が早期発見できる。でも、この国は症状が出てやっと見つかった病気を治すことに追われ、早期発見や予防に至らない」と憂う。

例えば外科チームは今回、日本なら通常、生後1カ月以内に行われる手術を10歳の子に行った。内科も同様で、術前の診断で「症状が進み、治療できない」と判断せざるを得ない例があった。日本では血流を調整する姑息（こそく）手術を行って本格的な手術に備えることも多いが、術後管理の難しさなどからミャンマーでは行われない。そうなると“一発勝負”の手術まで時間稼ぎができず、死亡する子供も多くなる。

5年間の予定の医療支援も間もなく折り返し地点。昭和大横浜市北部病院の富田英（ひでし）医師は「1歳くらいの子供の外科手術や体重5キロに満たない子供のカテーテル治療ができるようになること」を達成可能な目標に挙げている。

「日本のような医療を」研修の経験、ミャンマーで生かす

基金の活動の成果も確認することができた。

ミャンマー医療支援の一環で3月に来日し、約2カ月半にわたり国立循環器病研究センターなどで研修を受けた国立ヤンキン子供病院の女性医師、リューリュー・トゥンさん（46）は現在、同病院で病理診断や輸血システムなど6部門のチームリーダーを務める。「日本のような優れた医療をミャンマーで実現したい」。そんな思いを抱えながら日本で学んだ技術を若い医師らに伝えていた。

「日本で学んだことは日々、役に立っています」。ヤンゴンに医療団が到着すると、研修時にお世話になった同センターの市川肇医師らに手作りの弁当を渡し、感謝の気持ちを伝えたトゥンさん。医療団の滞在中、手術時の輸血方法について質問するなど、知識の吸収にも余念がなかった。

トゥンさんは日本での研修を終えて帰国した後、学んだ内容をまとめた報告書をミャンマー政府に提出。とりわけ、輸血管理が優れているとして、さっそくシステムを導入するための予算を政府に要望した。また、患者がどのような病気なのかを判断する病理診断など、日本で学んだ知識を折に触れて部下の若い医師たちに伝えている。

「学んだ成果を生かしてミャンマーの医療レベルを上げ、一人でも多くの命を救いたい」というトゥンさん。日本で感銘を受けたのは医療技術だけではない。「街はきれいで、人々は規律正しい。いくらでも学ぶことがある。ぜひ、また行きたい」と話した。

技術の伝承は「医療に関わる者として当然」　刺激は日本の医師にも

一方、医療団の活動は、参加した働き盛りの若手医師らにも刺激を与えている。

内科チーム最年少の高田秀実医師（45）は3回連続の参加。現地の若手と積極的に意思疎通を図りながら「今後は考えながらやるということを伝えたい」という。技術だけでなく、「手術をするかどうかの判断、何か問題が起きたときの対応など、応用力をつけてもらいたい」と次なる課題を見据えている。

医療団最年少で今回初めて参加した国立循環器病研究センターの臨床工学技士、水谷晃暢さん（26）は、心臓手術で必要となる人工心肺装置を担当した。「自分も上司や先輩に教えてもらって今がある。それを必要とする人たちに伝えていくのは医療に関わる者として当然」と話し、「術後のフォローなど、まだまだ現地の医療には課題がある。これからも参加したい」と述べた。

◇

「明美ちゃん基金」への振り込みは、みずほ銀行東京中央支店（店番号110）普通口座567941「産経新聞社会部明美ちゃん基金」。郵送の場合は、現金書留で〒100-8077　産経新聞東京本社社会部「明美ちゃん基金」。

©2016 The Sankei Shimbun & SANKEI DIGITAL All rights reserved.